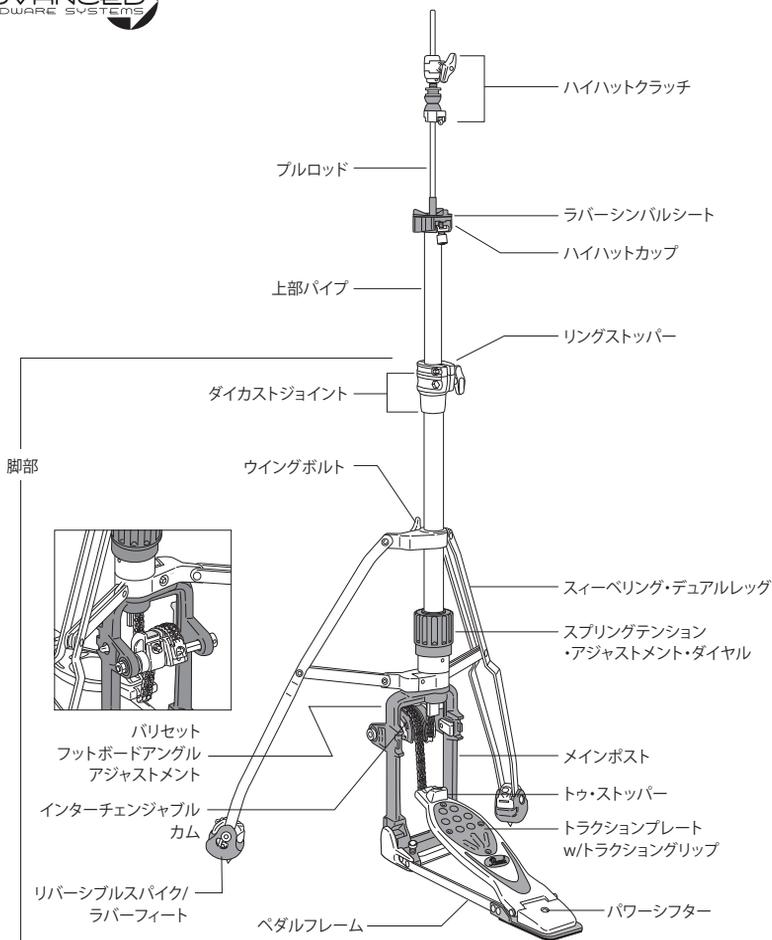


PEARL HI-HAT STAND

H-2000

取扱説明書

この度は、H-2000ハイハットスタンドをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
製品の機能を十分に発揮してお使いいただくために、この取扱説明書をぜひご覧下さい。



主な特徴

- ボジリング・ツインカム・ドライブシステム
- インターチェンジャブル・カム
- パワーシフター
- バリセット・フットボードアングルアジャストメント
- トラクションプレート w/ トラクショングリップ
- スーパーグリップ・クラッチ
- スィーベリング・デュアルレッグ
- リバーシブル・スパイク/ラバーフィート

脚部の組み立て

メインポスト側面のキーボルトを緩め (図 1-A)、フックを開いてストラットエンドから外し、フットボードのペダルフレームをドッキングステーションから離します (図 1-B)。(不慮の脱落を防ぐためペダルフレームに手を添えてください。) ペダルフレームを外したら、ノイズ防止のためキーボルトを締めフックを閉じてください (図 1)。

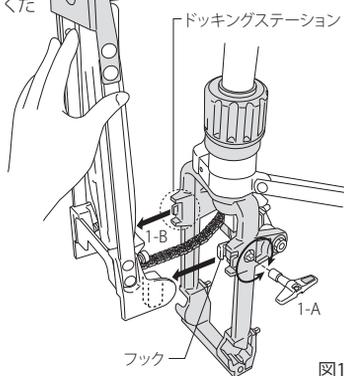


図1

メインポスト下部両サイドのクランプのキーボルトを十分に緩めたら (図 2-A)、ペダルフレーム先端のストラットエンドをメインポストに図のような角度 (約 45°) で奥まで差し込みます (図 2-B)。

メインフレーム内部でストラットエンドを回転させるようにして、フットボードのかかと部分をゆっくりと下ろします (図 2-C)。

両サイドのクランプのキーボルトをしっかりと締めてストラットエンドを固定してください (図 2-A)。

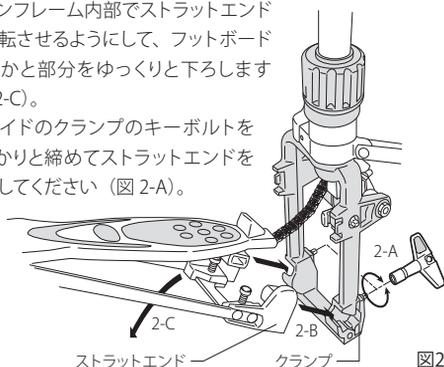


図2

次に、2本のレッグを固定します。キーボルトとウイングボルトをゆるめ、レッグを十分に開き、スタンド本体が垂直に立っていることを確認した上で、キーボルトとウイングボルトを締めてレッグを固定します。ただし、2本のレッグは自由に回転するシステムですので、足もとのセッティングを調整しながらレッグを固定してください (図 3)。

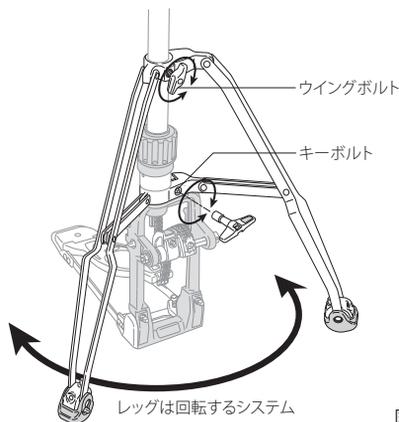


図3

注意

レッグを回転させる際、スタンド本体が不安定にならないよう、ご注意ください。レッグのポジションによっては、スタンドが倒れる場合があります。

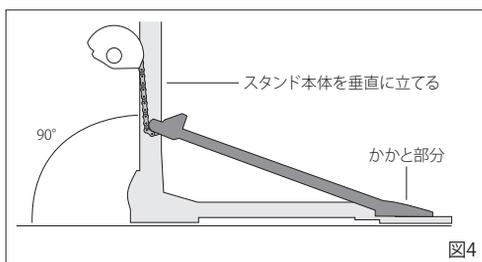


図4

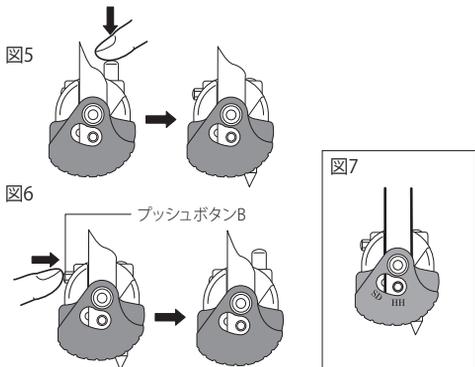
注意

スタンド本体は、メインポストとペダルフレームのかかと部分が接地した状態で垂直になるようにセッティングしてください (図 4)。スタンドを傾けると安定性がたもてなくなります。

コンバーチブル・スパイク/ラバーチップ (プッシュボタン装備)

ハイハットスタンド本体のスリップ防止のため、プッシュボタンで操作するスパイクを装備。

スパイクを使う際はプッシュボタン A を押し (図 5)、横のプッシュボタン B を押しすとスパイクはもとに戻ります (図 6)。

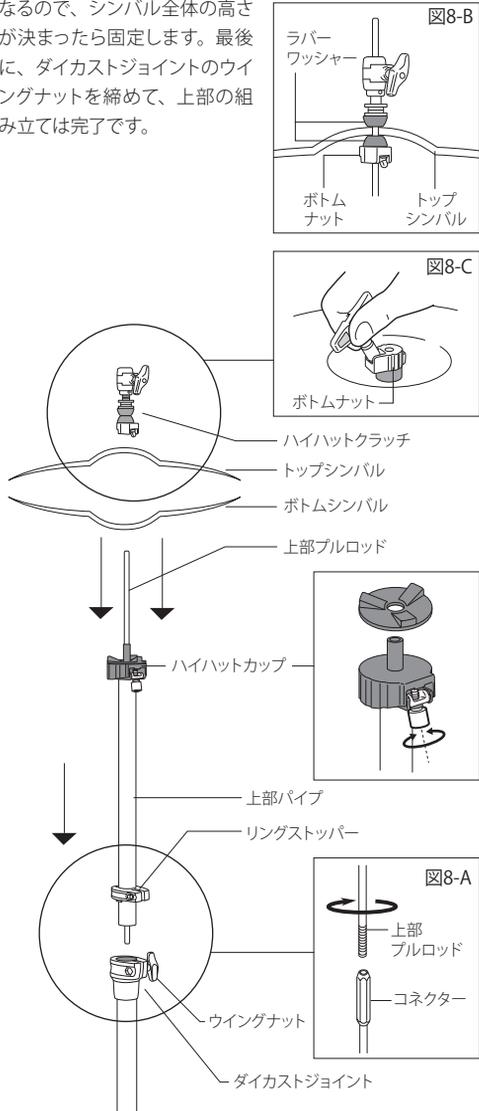


ラバーチップに表示されている "HH" はハイハットスタンドを表わしています。工場出荷時にはラバーチップがこのポジションに設定されていますが、機能を十分に発揮するために、この設定を変更しないようご注意ください (図 7)。

注意
スパイクの先端は鋭いため、手や体に触れると大変危険です。スパイクを露出させてご使用の際は十分に注意して下さい。
また、スパイクを使う際は、床を傷つけないよう、じゅうたん、カーペットなどの敷物を床に敷いてからお使い下さい。

上部の組み立て

脚部のダイカストジョイント内のプルロッド先端のコネクターに、上部のプルロッドをねじ込んで接続し (図 8-A)、上部パイプをダイカストジョイントに差し込みます。つぎに、ボトムシンバルをハイハットカップにのせ、トップシンバルはハイハットクラッチの 2 枚のラバーワッシャーの間にはさみ、裏からボトムナットで固定し、プルロッドに上から差し込みます (図 8-B/8-C)。ハイハットスタンドのペダルを踏み込み、上下のシンバルに適度な隙間ができる位置でハイハットクラッチのウイングボルトを締めて、トップシンバルを固定します。なお、リングストッパーはセッティング位置の目安となるので、シンバル全体の高さが決まったら固定します。最後に、ダイカストジョイントのウイングナットを締めて、上部の組み立ては完了です。



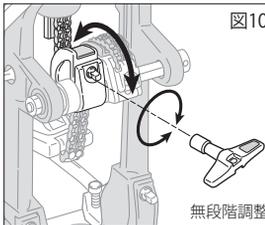
ハイハットカップ角度調整

ノブを回してカップを傾け、上下のシンバルの中の空気のコもりを解消します(図9)。



フットボードアングルの調整

フットボードの角度(踏み込みの深さ)は、バリセットシステムで幅広く自由に設定することができます。左側のホイールに組み込まれたキーボルトをゆるめれば、無段階に好きなポジションが得られ(図10)、さらに右側のホイールのチェーンコネクタをゆるめてスライドさせれば、フットボードの角度を3段階に変化させることができます(図11)。



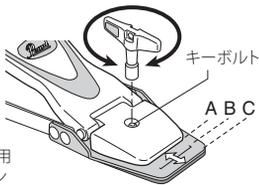
注意

フットボードアングルを極端に高く、あるいは低く設定すると、インターチェンジャブルカムの交換ボタンが引っ掛かってしまう場合があります。その際は、フットボードアングルをややもどしてから、カム交換を行なって下さい。

パワーシフターの調整

フットボードのヒール部には、ドラムペダルと同様のドライブアクション調整システム、パワーシフターが組み込まれています。ヒール部のキーボルトをゆるめ、フットボード全体を前後に移動させれば、3通りの異なるフィールが得られます(図12)。

A: 踏み込んだパワーをダイレクトに伝え、踏みこたえのあるアクションを発揮するポジション
B: 素直なアクションが得られるノーマル・ポジション
C: スピーディーなフットワークに対応し、スライド奏法などを多用するドラマーに効果的なポジション

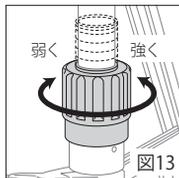


<注意!>

フットボードヒール裏面のゴムは、ほこりなどが付着するとグリップ力が落ちてしまいます。その場合は湿らせた布等で拭き取って下さい。

スプリングのテンション調整

締めやすい大型ダイヤルで幅広いスプリングテンション調整ができるシステム。小刻みに回転/ストップを繰り返し、その変化を見た目で確認することができます(図13)。



インターチェンジャブル・カムの交換

H-2000 ハイハットスタンドには、付属品として4種類、オプションとして2種類のカムがあります。カムを交換する際は次の要領で行なってください。

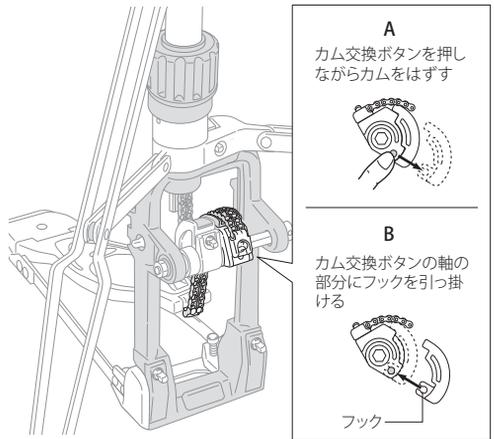
<カムをはずすには…>

フットボードにつながっているホイールの交換ボタン(小さい突起)を押しながら、カムを取り去ります。

<カムを取り付けるには…>

新たにに取り付けたいカムのフックをカム交換ボタンの軸の部分に引っ掛けて正しく取り付けます。

注意
カムは正しく取り付ければ、ぴったりと密着してホイールに取りまります。ずれたまま無理に押し込むと破損するおそれがあります。また、カムを取り外したまま使用すると故障の原因となりますので、ご注意ください。



<インターチェンジャブル・カム>

付 属 品				オ プ シ ョ ン	
ブラック	ホワイト	ブルー	レッド	パープル	イエロー

- ブラック** : パールのオリジナルサイズの真円カムで、パワーがあり、素直でくせのないアクション。
- ホワイト** : ブラック・カムをひとまわり大きくした真円のカムで、全体的に軽めのアクション。
- ブルー** : 回転軸が中心からずれたカム(偏芯カム)で、踏み始めは軽く徐々にスピードが加速していくアクション。
- レッド** : 回転軸が中心からずれたカム(偏芯カム)で、細かいフットワークに応えるトラディショナルなアクション。
- パープル** : レッドカムのスピードと、ブルーカムのパワーをバランス良く取り入れたアクション。(オプション)
- イエロー** : ダイレクトドライブの独特な感触を再現した、高速プレイを追及するドラマーに最適なアクション。(オプション)

トラクションプレート / トラクショングリップの設定

フットボードに埋め込まれたトラクション・プレートのストッパー(トラクション・グリップ)は、個別にとりはずすことができるシステムのため、好みのパターンに変えて、フットボード表面の滑り具合の微調整をすることが可能です。ストッパー(トラクション・グリップ)をはずす際は、付属の六角レンチでトラクション・プレートをはずしてから行なって下さい(図14)。

またフットボードのパターンを上下逆にする場合には、トラクション・プレートははずし、方向を変えて再び固定して下さい(図15)。

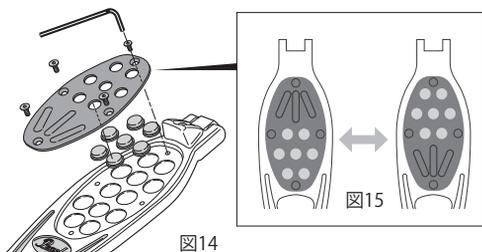


図14

図15

注意

トラクション・プレートの4本のネジは必ず均等に締めてください。片締めをして無理にネジを締めると、プレート、ネジ、さらにはフットボードを破損するおそれがあります。

また、4本のネジは常に点検し、ゆるんだら六角レンチで締めてください。トラクション・プレートを取りはずした状態のままでは絶対に使用しないで下さい。ケガをする恐れがあります。

ペダルフレームの収納

収納、運搬の際にはフットボード下のペダルフレームをメインポストのドッキングステーションに取り付けます。

メインポスト側面のキーボルトを緩め、フックを開いたらメインポストのドッキングステーションの四角形の突起をストラットエンドの四角穴に

差し込みます(図16)。

この時、ストラットエンドを平行に差し込むように注意してください。

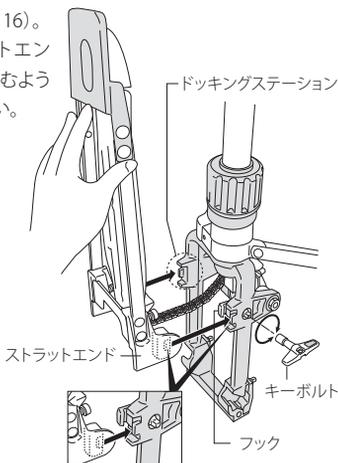


図16

ストラットエンドをドッキングステーションの奥まで差し込んだら、メインポスト側面のキーボルトを締め、フックでストラットエンドをはさみます(図17)。

この時、フック先端のツメがストラットエンドにしっかりと収まっているか確かめてください。

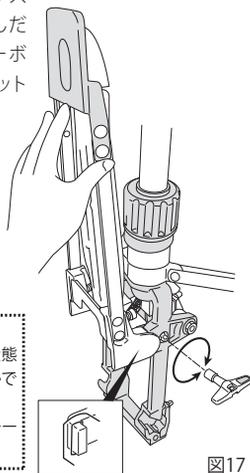


図17

注意

フックのツメが収まっていない状態で、無理にキーボルトを締めないでください。破損の恐れがあります。不慮の脱落を防ぐためペダルフレームには手を添えてください。

<その他の注意>

各部の組み立てについて

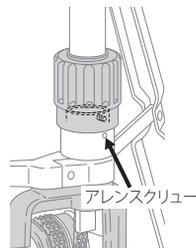
セッティングに慣れていないうちは、脚部全体を床に寝かし、メインポストにペダルフレームを差し込む方法もお試しください。

演奏後の収納について

演奏後は、当マニュアルの『脚部の組み立て』の項目を参照し、逆の手順で各部をばらしてください。

パイプ固定用のアレンスクリュー

図のように、脚部のパイプはアレンスクリューで固定されていますが、演奏中の振動でゆるむおそれがありますので、必ず点検し、よく締めてください。



潤滑油の供給

チェーンやボルト、ナット、ヒンジなどには、まめに油をさすよう掛けてください。

注意

- ◆ ホーローネジがゆるんだ場合には、付属の六角レンチで締め直して下さい。また、チェーン、カムローラー、フットボードヒンジなどの可動部分には時おり注油(グリス等)して下さい。
- ◆ ペアリングへの注油に、粘性の低い潤滑油のご使用はお控えください。
- ◆ フットボードヒール裏面のゴムは、ほこりなどが付着するとグリップ力が落ちてしまいます。その場合は湿らせた布等で拭き取って下さい。

Pearl

パール楽器製造株式会社

〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1
電話：047-484-9111 (代表)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田593-1
電話：047-450-1090 (テクニカルサポート)

<http://www.pearlgakki.com>

製品改良のため予告なくデザイン・仕様を変更する場合がありますので御了承下さい。

Printed in China
-1501-